

◆岐阜・高山で見た

# 建設業の複業化

<上>

地域を守っていくためには、地域に根差した建設業が今後も地域に存在し続けていく必要がある。経営を継続する手段の一つは、建設業以外にも本業を持つ複業化だ。新事業の開拓などに取り組む建設業と、その支援者で組織する建設トップランナー倶楽部幹事会が、岐阜県高山市内の建設業の複業化を視察した。同行取材により、農業に参入した和仁建設と、林建協働に取り組むたかやま林業・建設業協同組合の二つの事例を2回に分けて伝える。

「何を誰に、どんな手段で、いくらで売るか。これらを徹底的にマネジメントしてから本格的な生産に入ることにしている」。和仁建設(岐阜県高山市上宝町)の和仁松男社長は、グループ会社である和仁農園の経営についてそう話す。

## 土木の工程管理活用

耕作地のせまい中山間地域は、農業にとっても条件は不利だ。そんな地域で和仁農園は、土木工事の工程管理や原価管理、品質管理、安全管理の手法を導入し、コメ作りを中心に、農家が一般

的に行っている慣行農法とはまったく違った農業を展開している。有機栽培のコメは徹底して食味にこだわり、「コメ」と話す。田植え時期の食味分析鑑定コンク

「何を誰に、どんな手段で、いくらで売るか。これらを徹底的にマネジメントしてから本格的な生産に入ることにしている」。和仁建設(岐阜県高山市上宝町)の和仁松男社長は、グループ会社である和仁農園の経営についてそう話す。

## 和仁建設の農業参入

# 広がる中山間地振興の可能性

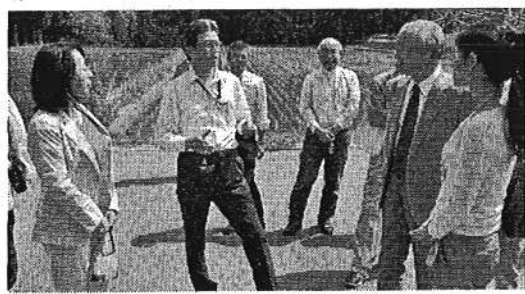
入者も、ほとんどがリビーターだ。従来の農業と具体的にどう違うのか。和仁氏は「コメは穂が出る時期に寒暖の温度差が大きくなり食味が増す。9月に

からさまざまな仕事を端境期に受託し、トラクタの稼働時間は通常の倍になった。そういったことが原価の低減にもつながっている。

## 耕作放棄地に危機感

和仁氏は、雇用を確保しなければならぬという思いとともに、耕作放棄地の増加に危機感をい

耕作面積あたりの収穫量だき、2000年から、耕作放棄地の再生や耕作を手掛けるかたちで農業に参入した。09年に設立した和仁農園の正社員は現在9人。12年度は、86人の地権者から借り受けられた169枚の水田を中心に20・7畝を耕作する。新たな事業に取り組む上では、雇用や耕作放棄地の再生などを支援する



視察者に農法を説明する和仁社長(写真中央)

行政の補助制度も重要だった。補助制度によって現在、農産物の加工品の製造などにも取り組んでいる。「子供たちが農業を理解して地元に残って通新聞社中部支社」(比良博行)

をかけたも地元で落ちることになる」と和仁氏は話す。和仁氏は現在、農業体験を取り入れた観光も企画している。「住みたくなるような場として農村を保全し、農